

発掘された上円下方墳

古墳名	所在地	時期	築成	規模 (m)			埋葬施設	調査年・指定
				下方部辺長	上円部径	高		
武蔵府中熊野神社古墳	東京都府中市	7世紀中頃	3段	32.0	16.0	5.0	横穴式石室	2003・2004年 国史跡
天文台構内古墳	東京都三鷹市	7世紀後半頃	2段	27.0	19.0	2.1	横穴式石室	1970・1971・ 2006年
山玉塚古墳	埼玉県川越市	7世紀後半頃	2段	69	37.0	5.0	横穴式石室	2012・2023年他 国史跡
野地久保古墳	福島県白河市	7世紀後半から 8世紀初頭頃	2段	16.0	10.1~10.3	2.5m 以上	横口式石室	2008年 国史跡
石のカラト古墳	奈良県奈良市 京都府木津川市	7世紀末から 8世紀初頭頃	2段	13.8	9.2	2.9	横口式石室	1979・1996年 国史跡
清水柳北1号古墳	静岡県沼津市	8世紀前半頃	2段	12.7	9.0	2.8	石室	1986・1987年

上円下方墳の可能性のある古墳

古墳名	所在地	築成	規模 (m)			埋葬施設	調査年・指定
			下方部辺長	上円部径	高		
石舞台古墳	奈良県高市郡明日香村	2ないし3段	50.0	推定27.0	—	横穴式石室	1933・1935年 国特別史跡

発掘されていない上円下方墳

古墳名	所在地	築成	規模 (m)			埋葬施設	備考
			下方部辺長	上円部径	高		
宮塚古墳	埼玉県熊谷市	2段	20.0	6.0~8.0	4.3	不明	国史跡
火塚古墳	岐阜県加茂郡坂祝町	2段	29.0	22.0	6.9	横穴式石室	町史跡
山畑2号墳	大阪府東大阪市	2段	28.0	14.0	8.0	横穴式石室	

など

ご利用案内

交通のご案内



JR南武線西府駅より徒歩8分
京王バス「西府町2丁目」から徒歩4分
京王バス「西府町3丁目」から徒歩4分



国史跡
武蔵府中熊野神社古墳



国史跡 武蔵府中熊野神社古墳展示館

古墳断面削取り土層を壁一面に展示しているほか、墓石などの実物資料、銅瓦金具のレプリカなども展示しています。展示館スタッフによる解説も承ります。

石室復元展示室

古墳内部に作られた埋葬施設を復元したものです。入室をご希望の際は展示館スタッフまでお声がけください。



〒183-0031 東京都府中市西府町2-9
電話:042-368-0320

開館時間 (4月~10月)午前9時~午後5時 入館料 無料
(11月~3月)午前10時~午後4時

休館日 月曜日/月曜日が休日の場合は翌日(国慶の日・敬老の日)に当たる場合は直後の平日
年末年始 (12月29日~1月3日)、臨時休館日 (国慶の日や敬老の日)

発行元・お問合せ先

府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課

〒183-0023 東京都府中市宮町3-1 府中市立ふるさと府中歴史館3階
電話:042-335-4487(直通) メール:bunkazai01@city.fuchu.tokyo.jp

(令和6年3月発行)

くにしせき

国史跡

武蔵府中

むさしふちゆうくまのじんじゃこふん

熊野神社古墳



国史跡 武蔵府中熊野神社古墳

飛鳥時代の7世紀の中ごろ(今から約1,350年前)に築造されました。

上円下方墳と呼ばれるこの形は、古墳時代の終わりごろに作られるようになった、全国的にも非常にめずらしい形です。被葬者(埋葬された人物)については、残念ながら当時の文献や記録、出土品からはわかりません。しかし、復元された古墳の姿からは、当時の最先端の技術、文化に触れることのできた人物であり、おそらく当時の武蔵地域の最有力者であったと考えられます。



ここに注目!

武蔵府中熊野神社古墳の4つのポイント!

1. 上円下方墳
2. 念入りな設計
3. 土木技術
4. 最先端文化

1. 上円下方墳

上円下方墳は、飛鳥時代の終わり頃に造られるようになった墳形で、円墳と方墳を上下に積み上げたものです。

円が天を、方形(四角)が地を示すとする古代中国の「天円地方」の思想に基づくもので、古代の人々が想像する世界を表す特別な形と考えられています。

発掘調査でこの墳形が確認された事例としては「石のカラト古墳」(奈良県・京都府)、「清水柳北1号墳」(静岡県沼津市)、「天文台構内古墳」(東京都三鷹市)、「山王塚古墳」(埼玉県川越市)、「野地久保古墳」(福島県白河市)と当古墳のわずかに6例しかなく、全国的に見ても稀有な形といえます。

2. 念入りな設計

上円下方墳は、厳格な企画のもと、築造されたと考えられています。石室の玄室(一番奥の部屋)の奥壁から南へ約50cmの位置に小穴がありました。これは、古墳を構築する際の基準杭の跡と考えられています。また、墳丘の一边の長さは、3段目の上部が直径約16m、2段目の下方部が約23m、1段目の下方部が約32mです。

3段目の円に外接する正方形は2段目の正方形に内接する円と外接し、2段目の正方形に外接する円は1段目の正方形に内接します。

3段の墳丘は、円と正方形とを相互に組み合わせた形であり、きわめて企画性の高い設計であったことがわかっています。



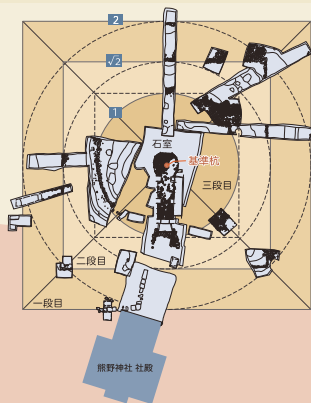
▲玄室内で検出された小穴



▲上円部葺石の状況



▲下方部角の葺石の状況

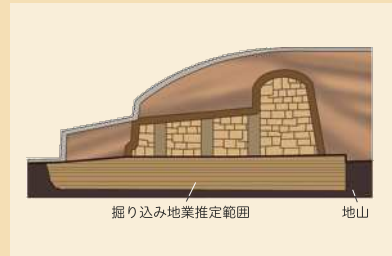


3. 土木技術

本古墳は、古墳自体を強固なものとするため、さまざまな技術が使われています。石室の下は、元の堆積土(地山)を一旦取り除き、ローム土や粘質土を交互に叩き締めながら土を埋め戻す「掘り込み地業」(地盤改良工事)が施されました。

石室を構成する切石には、地震などで切石が動かないように、切石に大小の切組が施されていたり、切石をくみ上げてから壁面に丁寧に削り上げています。さらに、石室を覆う墳丘は、墳丘が崩れるのを防ぐため、種類の異なる土を交互に硬く積み上げる「版築工法」を用い、全面を河原石で覆っています。

これらは、それまでの多摩地区の古墳にはほとんど見られなかった新しい技術でした。



▲版築の状況



▲掘り込み地業の状況



▲石室内切石組の様子

4. 最先端文化

出土品からも新しい文化の導入を見ることができます。

石室の中で見つかった大刀の鞘尻金具は、鉄製の地金に銀線で模様が付いています。

この模様の中に、「七曜文」が確認できます。七曜文は7つの円(O)で構成される文様で、日と月、木・火・土・金・水を表しています。同じ時期に作られた貨幣「富本銭」に確認できるだけで、出土品としては国内外ともに、全く見られないものです。

七曜文もまた、古代中国において陰陽五行の思想に基づき考案された文様とされ、当時の日本では最先端の文化として、取り入れられたものと考えられます。

